

## 豚熱とは

豚熱は、豚熱ウイルスを原因とする豚とイノシシの熱性伝染病で、伝染力が強く、治療法がないため、法定伝染病に指定されています。感染動物との直接接触や鼻汁・排泄物等との間接触により感染し、発熱・白血球減少・食欲不振・耳介等のチアノーゼ等を示して短期間で死亡する急性のものから、長期的な経過をたどるものまで多様な症状を示します。現在我が国で流行している株は、激しい症状を示しにくいとされています。

我が国では、2018年9月に国内の豚農場において26年ぶりに発生が確認され、その後、野生イノシシでの感染も確認されました。現在は、野生イノシシにおける感染の拡大状況などを踏まえ、対象地域における飼養豚へのワクチン接種と、野生イノシシに対する経口ワクチンの散布が行なわれています（→特集1参照）。

## サーベイランスの方法と実施状況

豚熱の感染の早期発見などを目的として、飼養豚及び野生イノシシのサーベイランスを実施しています。

### 【飼養豚】

#### (1) サーベイランスの方法

##### ① 定期的な農場の立入検査

原則として年に1回、豚飼養農場に家畜保健衛生所が立入り、臨床状態を確認。チアノーゼや発熱等の異常を認めた場合は豚熱の検査を実施。

##### ② 抗体検査

ワクチン非接種農場で飼養されている豚を対象に、豚熱感染の有無を確認するための抗体検査を実施。

##### ③ 病性鑑定材料を用いた検査

飼養者等からの依頼で、家畜保健衛生所で豚の病性鑑定を行った場合に、併せて豚熱の検査も実施。

#### (2) サーベイランス実施状況

##### ① 定期的な農場の立入検査

2021年度は、4,009農場に対し立入検査を行い、異状が認められた農場はありませんでした。

##### ② 抗体検査

2021年度は、ワクチン非接種農場500農場の豚15,005頭が検査され、結果は全て豚熱陰性でした。

##### ③ 病性鑑定材料を使った検査

2021年度は563農場、3,354頭からの病性鑑定材料について検査が実施され、結果は全て豚熱陰性でした。

### 【野生イノシシ】

#### (1) サーベイランスの方法

死亡した状態で見つかったイノシシと、捕獲されたイノシシについて、豚熱の検査を実施しています。

#### (2) サーベイランス実施状況

野生イノシシについては、豚熱の感染地域の拡大に伴い、豚熱の検査頭数が増加しています。2021年度には、死亡イノシシ647頭、捕獲イノシシ20,760頭が検査され、それぞれ334頭（51.6%）と1,055頭（5.1%）がPCR陽性でした。感染イノシシが確認されている地域は、2020年度までは24都府県でしたが、2021年度は新たに3県で感染イノシシが確認され、合計27都府県となっています。

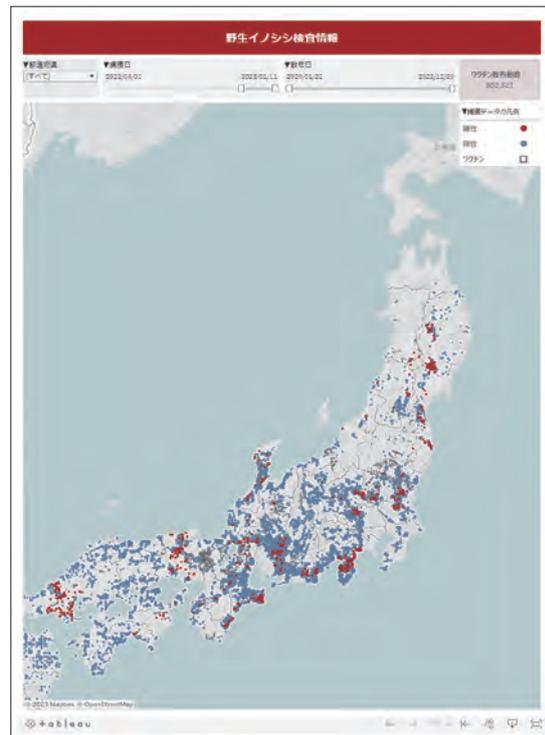
イノシシにおける豚熱の最新状況が分かる地図と都道府県ごとの詳細なサーベイランスの分析結果は、農林水産省ホームページに掲載されています。

### 豚熱（CSF）について

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/>



農林水産省ウェブサイトの野生イノシシの検査情報のページ



2-6-1表 豚熱発生件数の推移

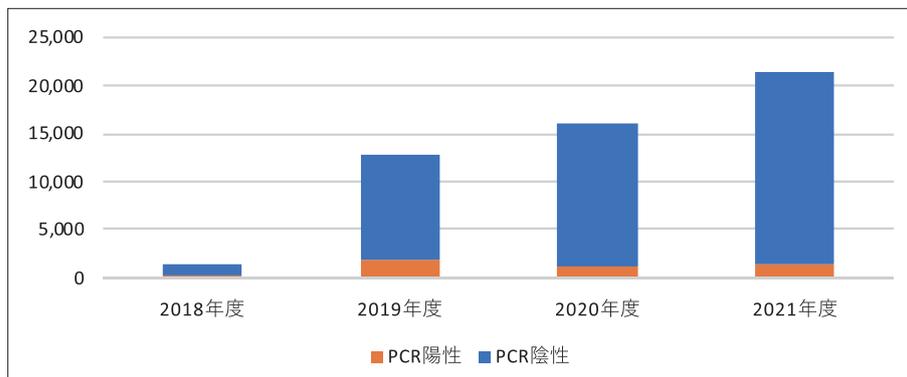
	2019年	2020年	2021年
件数	45	10	15

2-6-2表 2021年度飼養豚における豚熱サーベイランス（抗体検査）実施状況

農場数	実施頭数		抗体検査陽性頭数 <sup>(注)</sup>	豚熱陽性頭数
	繁殖豚	肥育豚		
500	5,436	9,569	2	0

(注) 抗体陽性となった2頭については遺伝子検査及び中和試験陰性のため豚熱を否定

2-6-1図 2021年度野生イノシシ豚熱サーベイランス（PCR検査）実施状況



2-6-2図 2021年度に豚熱検査を実施した野生イノシシの分布

